

図2 通常総会であいさつする中川会長。

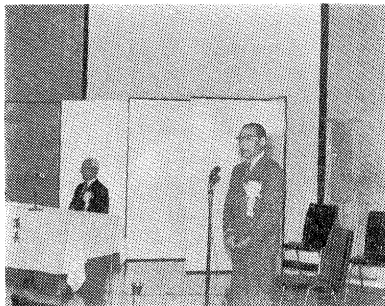


図3 名誉会員に推せんされた寺沢名誉会員のあいさつ。

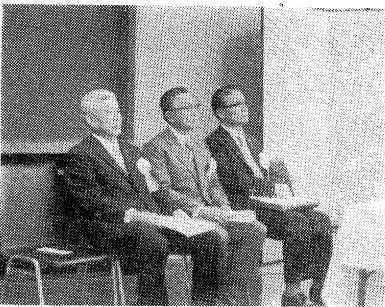


図4 昭和49～50年度の支部長に就任された右から荒川一郎(関東), 村田正武(中部), 前川容始男(関西)の各支部長。

第6号議案：昭和49～50年度評議員決定の件

評議員選挙結果の報告
片山選挙管理委員長より評議員選挙結果の報告が行なわれ投票総数5,284票による評議員当選者の確認が行なわれた。
(議事はここで第1回評議員会開催のため一時中断)

第7号議案：昭和49～50年度会長、副会長・支部長選任の件

会長選任の件については野寺評議員より第1回評議員会において中川良一氏を選任した旨報告が行なわれ承認された。

会長 中川良一(日産)
副会長, 支部長選任の件については中川会長より第1回評議員会において副会長は設置しない, また各支部長は以下のとおり選任した旨報告が行なわれ承認された。

関東支部長 荒川 一郎(関東自工)
中部 “ 村田 正武(三菱自工)
関西 “ 前川容始男(光洋精工)
九州 “ 柘植 盛男(九州大)

以上, 総会議事が終了したのち中川新会長よりあいさつが行なわれた。

▶第24回自動車技術会授賞式

昭和49年5月21日(火)11:40～12:00
全共連ビルにおいて挙行。

式は近藤政市技術会賞審査委員長の審査報告が行なわれたのち学術賞2件9名, 技術賞2件8名に対し中川会長より賞状ならびに記念品が授与された。

〈学術賞〉

(1) 自動車用機関の排気ガスと性能におよぼす排ガス再循環と残留ガスの影響
金子靖雄・小林弘幸・駒米礼二郎・川越光広・古賀一雄(三菱自動車工業第1技術センター第2エンジン技術部)

(授賞の理由)

大気汚染の研究のうち, もつとも困難なNO_xに対しEGRによつて減少することがよい方法といわれている。この方法に対し燃料と窒素・酸素およびEGRの範囲を広い範囲で変化させ, 理論的かつ実験的に単シリンダエンジンをを用いてNO_xの成立におよぼす各種要因の影響を解明した。

(主な業績)

SAE Paper 720483, 710296.
三菱石油技術資料 Vol. 20, No. 1, 1971.
自動車技術会前刷集 71年5月内燃機関 Vol. 8, No. 12, 1969.
三菱重工技報 Vol. 5, No. 3, 19.
(受賞者の略歴)

金子靖雄君

大正15年1月28日生れ, 昭和26年東大機械科卒, 同年4月三菱重工入社, 第2エンジン技術部次長。

小林弘幸君

昭和14年3月3日生れ, 昭和38年日大機械科卒, 同年4月入社。

駒米礼二郎君

昭和15年10月30日生れ, 昭和39年東北大機械科卒, 同年入社。

川越光広君

昭和24年2月1日生れ, 昭和47年九州工大工業化学科卒, 同年入社。

古賀一雄君

昭和26年7月18日生れ, 昭和45年佐賀工高機械科卒, 同年入社。

(2) 希薄混合気における排気浄化に関する研究

山内照夫・西宮寅三・大山宜茂・宝緒幸男(日立製作所佐和工場)

(授賞の理由)

自動車用ガソリン機関の排気浄化に関し燃料の気化を促進して従来の気化器付きガソリン機関の性能を大幅に向上し, かつ多点火プラグ燃焼の位相差量, 点火エネルギーの性質などの解析によつて燃料経済性を低下することなく窒素酸化物, 炭火水素の排出量を大幅に低減する方式を確立し, 燃料経済触媒コンバータなどの後処理装置への依存度の軽減などの面で自動車技術の向上に大きく貢献した。

(主な業績)

自動車技術会講演前刷集 732
日本機械学会第51期大会 1973年10月内燃機関 Vol. 12, No. 12, 1973.

(受賞者の略歴)

山内照夫君

昭和19年2月19日生れ, 43年茨大機械科卒, 同年4月入社。

西宮寅三君

昭和13年7月7日生れ, 32年水戸工高卒, 同年4月入社。

大山宜茂君

昭和13年3月7日生れ, 35年東北大機械科卒, 同年4月入社。

宝緒幸男君

大正11年9月20日生れ, 昭和20年東北大機械科卒, 昭和29年8月入社, 開発部長。

〈技術賞〉

(1) CVCC エンジンの研究開発
渥美 実・実戸俊雄・入交昭一郎(本

する件

藤田庶務担当理事より昭和49年度事業計画書にもとづき詳細説明が行なわれ, 原案どおり承認された。

第4号議案：昭和49年度予算に関する件

森田会計担当理事より昭和49年度予算書にもとづき詳細説明が行なわれ, 原案どおり承認された。

第5号議案：名誉会員推せんに関する件

福川秀夫・寺沢市兵衛・川田正秋の3氏を名誉会員に推せん, 承認された。なお, 寺沢名誉会員が代表して記念メダルの贈呈ならびにあいさつが行なわれた。

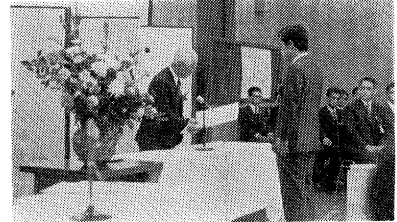
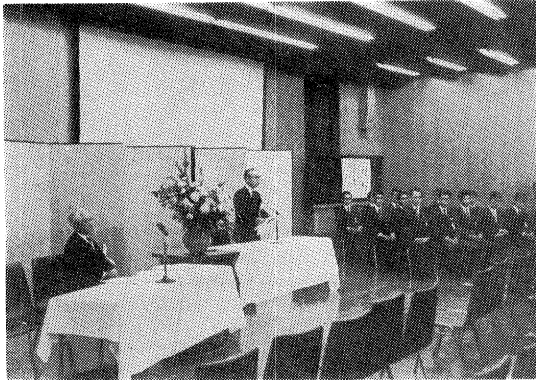


図 6 中川会長より賞状ならびに記念品の授与

◀ 図 5 第24回技術会賞授賞式、審査経過報告
をする近藤政市技術会賞審査委員長

田技研工業)

(授賞の理由)

CVCC システムエンジンの研究開発にあたり燃料供給関係および各種性能研究開発の推進指導面で量産化達成に寄与し、気化器設計の開発、エンジンシステムをさらに研究し、大排気量エンジンへの適用を可能にした。

(主な業績)

研究開発し発売された CVCC システム(複合渦流調速燃焼方式)は内燃機関の排気ガス浄化を目的として排ガスを発生源で抑え、エンジン内部でクリーンな燃焼をさせるもので、一般に使用されようとしている排ガス浄化装置(キャタライザーなど)を必要としないもの。その実施効果はすでに1975年の米国マスクー法の規制値を十分に達した旨米国環境保護庁より公式に報告されており、わが国においても昭和50年排ガス規制基準に適合するものである。

(受賞者の略歴)

渥美 実君

昭和12年5月31日生れ。昭和28年下阿多古中卒。同年入社。

矢野俊雄君

昭和13年1月3日生れ。昭和37年慶大機械科卒。同年入社。

入交昭一郎君

昭和15年11月13日生れ。昭和38年3月東大航空工学科卒。同年入社。

(2) 自動車用直接噴射式エンジンの実用化

三上泰男・荒井靖平・金原源泰・塚原好二・木村茂樹(いすゞ自動車)

(授賞の理由)

自動車用高出力性能の小型直接噴射式ディーゼルエンジンを開発し、その経済性(燃費)、高速化および信頼性の高い6シリンダ 5,393 cc (6 BB1) と4シリンダ 3,595 cc (4 BB1) の姉妹エンジンを実用化し、わが国自動車工業の技術水準の向上を計った。

(主な業績)

エンジン設計、実験開発に従事し、とくに小型高出力エンジンについては常に業界をリードし、わが国初めての中小型トラック(エルフ・フォワード)の渦流室式および直接噴射式ディーゼルエンジンの完成を計った。また、直接噴射式の量産化に際し品質管理面でその量産化、

立上りに寄与した。

(受賞者の略歴)

三上泰男君

昭和11年5月31日生れ。昭和35年早大機械科卒。同年入社。

荒井靖平君

昭和14年10月26日生れ。昭和40年東工大大学院機械科卒。同年入社。

金原源泰君

昭和13年6月11日生れ。昭和37年東大船舶学科卒。43年入社。

塚原好二君

昭和14年3月22日生れ。昭和36年茨大金属科卒。同年入社。

木村茂樹君

昭和8年5月3日生れ。昭和34年東大航空科卒。同年入社。

▶昭和49年春季学術講演会

昭和49年5月20日(月)9:00~17:00、翌21日(火)9:00~17:30 全共連ビル4階会議室において40講演が発表された。(別表)なお、同講演会の座長に以下の方々が担当された。

吉本堅一(東大)、古庄宏輔(ダイハツ)、佐藤 武(慶大)、樋口健治(東京農工大)、齋藤 安(東京農工大)、齋藤 孟(早大)、

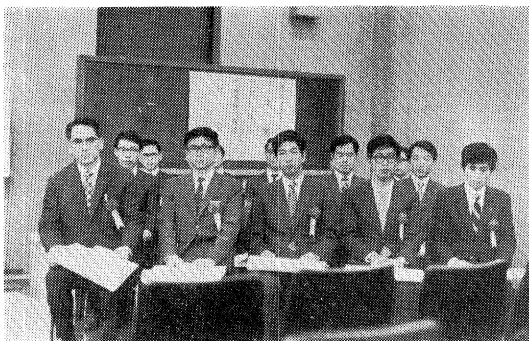


図 7 第24回技術会賞受賞者諸君

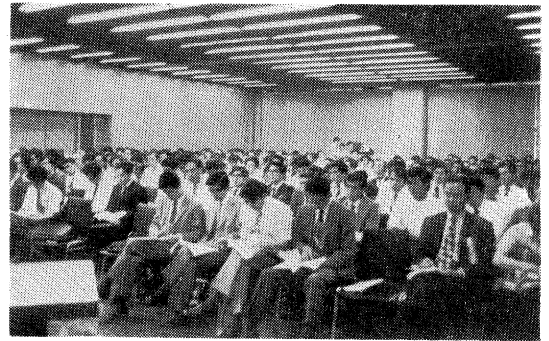


図 8 満席の学術講演会々場